

ボランティアで 人との「絆」をつなげましょう。

平成21年6月より、アロマセラピーのボランティア活動が開始されました。これまでアロマセラピーの有資格者1名の方が、がんによる慢性疼痛のある患者さまを対象に、小園がん性疼痛認定看護師の協力を得て、月1回で4名ほどの方に施術をしていただきました。現在はボランティアの輪が広がり、セラピストが4名に増えて、慢性疼痛のある患者さま以外にも、麻痺がある入院患者さまに医師の許可を得て施術して頂いております。患者さまの評判は上々で、今後の施術を楽しみに待ってられる方もいらっしゃいます。

アロマセラピー以外にも、ボランティア担当の佐々木看護師が患者さまとボランティアの橋渡しをして、外来や入院の患者さまの病院案内、車椅子の搬送等のボランティア活動を実施していただいております。

今回の東北大地震で「絆」の大切さやボランティア活動の重要性を実感された方も多いと思います。ちょっとした空き時間を利用して、日頃からボランティア活動を実施してみませんか。ボランティア活動を実施してみたいと思われる方は、当院のボランティア窓口までお気軽にお声をおかけください。



佐々木看護師 勝馬先生 鈴木先生 加藤先生

講習会・イベントのご案内

第66回開放型病床カンファランス 医療関係者向

日 時: 3月1日(木) 18:00~20:00
場 所: 松波総合病院 3階講堂
テ マ: 『薬剤耐性菌制御のための抗菌薬適正使用』
講 師: 金沢医科大学 臨床感染症学 教授 飯沼 由嗣先生

生活習慣病セミナー 医療関係者向

日 時: 3月8日(木) 19:00~20:30
場 所: 松波総合病院 3階講堂
テ マ: 『糖尿病と合併症』
講 師: 松波総合病院 副院長 林 慎先生

かかりつけ医院のご紹介



羽島郡 笠松町の 岡田眼科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前9:00~12:00	○	○	○	—	○	○
午後3:30~ 6:30	○	○	○	—	○	—

休診日 木曜日・日曜日・祝日・土曜日午後
〒501-6081
岐阜県羽島郡笠松町
東陽町38-2
☎ 058-388-2341
FAX 058-388-7601

院長: 岡田 信道 副院長: 岡田 和正

眼の病気には自覚症状の少ないものがあるので、不自由になる前に検査と治療が大事です。当院では開院以来、ていねいな診療、適確な診断、わかりやすい説明をモットーに大学病院、総合病院等での長年の経験を生かし、赤ちゃんからご高齢まで幅広い眼科疾患に対応しております。これからも地域の皆さまへの貢献を第一に分かりやすく丁寧な診療を行って参ります。

眼科一般 緑内障外来 角膜外来
コンタクトレンズ外来 白内障手術



お気軽にお問い合わせください。
☎ 058-388-0111
http://www.matsunami-hsp.or.jp/

当院は、病院内・敷地内
全面禁煙です。
皆様方のご理解とご協力
をお願いします。

松波総合病院 〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町代185-1

患者さまと
病院をつなぐ
かけはし
No.148
MATSUNAMI

まつなみ

2012
2
発行
社会医療法人
蘇西厚生会

医療最前線 前立腺がんの最先端治療

『ダ・ヴィンチ』による 前立腺がん全摘手術



前立腺の全摘手術は、早期の前立腺がんを根治させる基本的な治療法です。この全摘手術を、より安全・確実に行う方法として注目されているのが、ダ・ヴィンチによるロボット支援手術。松波総合病院でも、これまで4例のロボット支援前立腺全摘手術を行い、いずれも成功しています。そこで、執刀医の萩原徳康先生に、ロボット支援手術の現状とそのメリットについて話を聞きました。

泌尿器科副部長 萩原徳康



ダ・ヴィンチを使用した手術風景。

手術支援ロボット『ダ・ヴィンチ』による前立腺全摘手術とは？

前立腺がんの治療方法は？

前立腺がんの治療方法には、全摘手術、放射線療法、薬物療法などがあり、がんの進行状況にあわせて組み合わせられます。比較的早期の場合は、手術、放射線治療などの根治的治療で治すことができます。また、手術には、おなかを大きく切る開腹手術と、おなかに小さな穴をあけ、腹腔鏡という器具を体の外から操作する腹腔鏡手術があります。

高い技術が必要な前立腺全摘手術

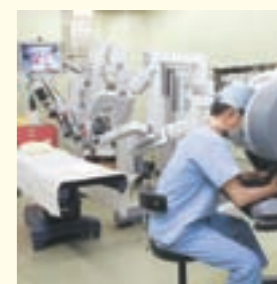
前立腺は膀胱のすぐ下にあって、尿道の周囲をとりまくクルミ大の臓器です。周囲には血管や尿道の筋肉、勃起神経などが網の目のように走っていることから、開腹手術は出血しやすく、近くの神経や筋に対して繊細な剥離操作が困難のため、尿失禁や直腸損傷といった合併症を起こす恐れがあります。

一方、腹腔鏡手術は術後の痛みも少なく、回復が早いという利点がありますが、狭い骨盤内で画像を見ながら棒状の器具を操作するのは難しく、習熟に時間がかかります。

これらの課題をクリアし、開腹手術と腹腔鏡手術、それぞれの利点をさらに向上させたのが、ロボット支援手術です。

ロボットアームで、前立腺がんの全摘手術

「ロボットが手術する」と聞くと、鉄腕アトムのようなロボットが手術している場面をイメージする人が多いかもしれませんが、ダ・ヴィンチは手術する医師を支援する機械で、実際は医師が手術台から離れたところにあるコンソールボックスの中で、拡大された体内の3D画像を見ながら器具を操作して手術を進めます。手術は手術用ロボットの専門的訓練を受けた資格のある医師のみが行うことができます。

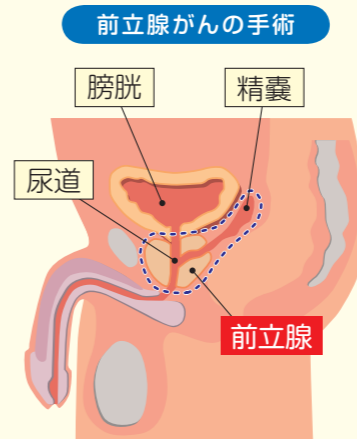


操作台の執刀医の動きを微細な動きとして忠実に再現し、手術を行います。

ロボット支援手術は、患者さまにも大きなメリット

■術野がよく見え、安全・確実に手術できる。
おなかにあけた小さな穴からカメラや器具を挿入し、おなかを炭酸ガスでふくらませるところまでは腹腔鏡手術と同じですが、異なるところは、手術がよりスムーズにできること。腹腔鏡で見える画像は2次元の画像ですが、ダ・ヴィンチは3Dの立体像で、肉眼では見えない前立腺の裏側や狭い部位まで自由に拡大して見ることができるため、より正確に手術が行えます。

■医者の手動きを正確かつ繊細に再現できる。
器具の先端は人の手や指のように自在に動かせる上に、ミリ単位以下の細密な動きや回転もできるので、患部の切除や血管の縫合などをより精密・安全に行うことができます。さらに安全チェック機能や手ぶれ防止機能も付いているので、精密かつ確実に、そして安全に手術が行えるようになりました。これは執刀医のストレス軽減にもつながります。



前立腺は骨盤の奥深く、狭いところにあります。

前立腺全摘手術は、体への負担が 少ない『ダ・ヴィンチ』が有利!

ダ・ヴィンチの最大のメリットは、術野がよく見えて安全に手術を行えること。人間の手の届かないような狭いところにまで器具を入れてスムーズに操作できるため、技術的に難しいと言われる前立腺がんの摘出手術においても、神経や血管、臓器を傷つけずにがんを完全に切除することができます。また、全摘手術では、前立腺を切除したあとに残った膀胱と尿道をつなぎあわせますが、ダ・ヴィンチなら膀胱と尿道の縫合が適切にでき、また神経温存ができることから術後の尿失禁も少ないと期待されています。

実際、当院でダ・ヴィンチによる全摘手術を受けられた4人の患者さま(50代~70代の男性)は、いずれも手術中の出血量が少なく、

従来の手術ではたびたび見られた術後の膀胱・尿道吻合不全や尿失禁もまったくありませんでした。また、術後の回復も非常に早く、手術の翌日には自力で歩き、翌々日には食事もしっかりとられ、10日間の入院で退院されました。



◀肉眼では見えない細かな神経や血管を10倍の拡大視野で見ることができ、深いところでの糸結びや縫合が容易かつ正確にできるのが、ダ・ヴィンチのメリット。

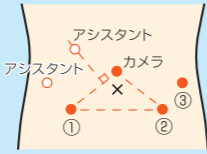
◀執刀医はモニターを覗き込みながら左右のハンドルを操作します。

ダ・ヴィンチ手術と開腹手術の比較

【ダ・ヴィンチ手術】

- 傷が小さく、術後の痛みが少ない。術後の回復も早く、ほとんどの人が手術の翌日には自力で歩くことができ、水分や食事をとることができる。入院期間も短い。
- 出血量が少ない(出血量の平均は200cc以下)。
- 拡大視野のため、がん細胞などを全て取り除く確率が向上し、根治性が高い。
- 膀胱と尿道を正確につなぎあわせることができる。また神経温存ができることから術後の膀胱・尿道吻合不全や尿失禁を最小限に抑えることができる。

ロボット支援腹腔鏡下による前立腺全摘除術

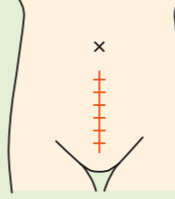


直径5~12ミリの穴を6カ所あけ、手術器具を体内に挿入します。

【開腹手術】

- 傷の大きさが約15~20cmと大きいため、術後の痛みが強い。
- 人の目で見える範囲に限られており、繊細な剥離操作が困難のため、手術中の出血量が比較的多い(出血量の平均は800~2,000cc)。
- 尿道と膀胱をつなぎあわせることが技術的に難しく、膀胱・尿道吻合不全や尿失禁などの合併症を起こす恐れがある。

開腹による前立腺全摘除術の切開創



皮膚切開はヘソの下から約15センチ~20センチ。

アメリカでは前立腺全摘手術の8割がロボット支援手術です。

ダ・ヴィンチ手術の先進国であるアメリカでは、現在1,200台を超えるダ・ヴィンチが稼働し、泌尿器科をはじめ婦人科、心臓外科、消化器外科などで積極的に行われています。とりわけ前立腺がん手術では、このロボット支援手術が大きな広がりを見せ、年間10万件のロボット支援前立腺全摘手術が施行されており、年々開腹手術は減少傾向となっています。

一方、日本でのロボット支援手術の歴史はまだ浅く、現在、ダ・ヴィンチを導入している施設は全国で18施設。このうち岐阜県では当院を含めて2施設となっています。当院では、これまで大腸がんを6例、胃がんを1例、前立腺がん4例のダ・ヴィンチロボット手術を実施していますが、いずれも良好な結果が得られています。

萩原医師より患者さまへメッセージ



松波総合病院
泌尿器科副部長
萩原徳康

【専門分野】
感染、アン드로ロジー、
内視鏡、腫瘍
【認定資格】
日本泌尿器科学会:
専門医・指導医
日本泌尿器内視鏡学会:
泌尿器腹腔鏡技術認定医

ロボット支援手術で、 より患者さまにやさしい治療を。

近年、前立腺がんに対する手術は、体への負担が少ない腹腔鏡手術が主流となりつつあります。同じ手術を受けるのであれば、小さな傷で痛みが少なく、回復の早い手術を希望するのは当然だと思います。

ダ・ヴィンチによるロボット支援手術は、体にやさしい腹腔鏡手術をさらに安全・確実に行うことを可能にしたもので、全世界ではスタンダードな手術方法となっています。私自身、実際にロボット支援手術を行ってみて、そのメリットは患者さまにとっても医師にとっても想像以上に大きく、日本でも近い将来、前立腺がんの全摘手術はロボット支援手術に切り替わっていくだろうと確信しています。

この前立腺がんの最先端手術を希望される方、手術の詳細をご確認なさりたい方は、一度当院泌尿器科外来にお声をおかけください。

健康コラム

変形性膝関節症

整形外科副部長 兼
関節外科副センター長 森 敦幸

専門分野：関節外科(特に膝関節)
認定資格：日本整形外科学会：専門医



変形性関節症とは外傷や加齢が原因となり関節軟骨がすり減ったり、なくなったりして関節が変形し、痛みや腫れをきたす状態です。四肢の関節にはどこでも起こりうる病気ですが、特に股関節や膝関節など、下肢の荷重を受ける関節に変形が起こりやすく、また荷重関節に変形や痛みを生じると、歩行や立ち座り動作が困難になります。

現在変形性膝関節症の患者数は自覚症状を有する患者数で約1,000万人、変形のみで痛みを自覚していない患者数を含めると約3,000万人と推定されています。高齢化が進む社会で、患者数は年々増加しています。多くは50歳以後に発症し、性別では女性が男性の4~5倍多く起こるといわれています。

初期には朝の起床時や腰掛けた後の動き始め、歩き始めになんとなく膝がこぼる、鈍く痛むといった症状からはじまり、徐々に立ち上がりや坂道、しゃがみ込み、正座などといった膝に力がかかる動作で痛みを感じるようになります。進行すると通常の歩行でも痛むようになり、日常生活に支障をきたすようになりますが、通常病状の進行自体は比較的ゆっくりで、数年から十数年かけて徐々に変形や疼痛がすすむことが多いといわれています。

治療法としてはまず自身でできることとして減量や筋力トレーニングがあります。膝にかかる負担は歩行時で体重の約2~3倍、階段昇降時には約4倍、走るときには約6倍近くになるといわれ、体重を減らすことで膝にかかる負担を減らすことは非常に重要です。また筋力トレーニングは膝を支える筋肉を鍛えることにより、軟骨がすり減って不安定になった膝を安定化する効果があります。具体的なトレーニングとしては椅子に腰かけた状態で膝を伸ばしたり、寝ている状態で脚を持ち上げるといった、膝に負担をかけずに行える運動がよいとされています。

また水中での運動も膝にかかる負担が少なく、消費するエネルギーも増えてダイエットにも効果的です。

こういった努力にもかかわらず、痛みが強くなる場合には薬物療法(抗炎症剤の内服や湿布などを使用します)やヒアルロン酸製剤の関節内注射、装具療法が必要となることもあり、さらに日常生活が強く障害される場合には人工関節などの手術治療が必要となることもあります。

関節に痛みがなく、快適な日常生活を送ることができるように、普段から予防していくことは大切です。また痛みを感じた場合はあまり我慢をせず、早めに医療機関に相談しましょう。

理学療法編



杉岡理学療法士の

リハビリ まめ知識

「ながら運動で、全身の 血液循環をよくしましょう!!」

みなさんは、「足は第二の心臓」という言葉を聞いたことがありますか?

血液は、心臓(ポンプ)の働きで全身に送られ、再び静脈を通過して心臓に還ってきます。心臓の拍動(心拍数)は1分間に約60~80回(1日に約10万回)であり、1回の拍動で70~100mlの血液を送り出すため、計算すると、心臓から送り出された血液は、1分ですらで体内を1周する計算になります。意外と速いと思いませんか?

しかし、体の末端にある「足」で使われた血液は、心臓から送り出された時の圧力だけでは心臓に戻ってくることが難しく、血液が滞りやすくなります。そこで、足やふくらはぎの筋肉が収縮と弛緩を繰り返すことで、ポンプのような働きをして、血液を心臓まで送り返しています。このように、足の筋肉の動きは心臓にとってもよく似ていることから、「足は第二の心臓」と言われています。中でもふくらはぎの筋肉がよく働くと、全身の血液の流れがよくなっていきます。その点でウォーキングは気軽に行え、効果的な

運動としてお勧めです。

寒い時期はなかなか外に出て運動ができないと思いますので、今回は室内で簡単に行える足の運動をご紹介します。

簡単に行える足の運動

- ①足首の運動
足首を、しっかり伸ばしたり反らしたりします。足首を内側、外側にぐるぐるとゆっくり大きく回します。
- ②足の指の運動
足の指をゆっくり曲げたり、伸ばしたりを繰り返します。
- ③足踏み
立って足踏みを行います。
※立って行うことが不安な方は、椅子に座って行ってください。

足の運動を行うと血液循環がよくなるため、むくみの予防にもなります。テレビを見ながらでも行いやすいと思いますので、ぜひ一度お試しください。